報告

IFSA'97に参加して

井上 博行* 亀井 且有*

1. はじめに

1997年6月25日から28日まで7th IFSA World Congress (IFSA'97)が開催されました。この会議は2年に一度行われるIFSAの国際会議で、今回は東欧のチェコ共和国の百塔の街プラハでの開催でした。日本からプラハまでの直行便はなく、ヨーロッパの主な都市から乗り継いで行かなければなりません。私達は、関空からアムステルダムを経由してプラハに入りました。

チェコは数年前までのチェコスロバキアで、隣りのスロバキアと一緒に国でしたが、東欧革命後それぞれ分かれました。革命後の混乱の中どのようなようになったか興味があったのですが、以外と西欧化が進んでいるように思えました。聞くとところによると、チェコは旧共産圏の中ではわりと経済的に成功しているようで、帰国後のニュースではNATOの加盟が認められたと報じられています。また、プラハは他のヨーロッパの国々から飛行機で2~3時間で来れるため、非常にたくさんの観光客が訪れていました。しかし、失業率はまだ高いようで、スリなどの犯罪も多いと聞きました。

2. 会議の様子

さて、会議はUniversity of Economicsで行われました(写真1)。場所は日本で売っていたプラハの観光地図にはぎりぎり載っていないところがありましたが、15~20分くらい歩けば街の観光スポットに行ける場所でした。

38ヶ国からの参加があり、国別の参加者を表1に示します。最も多いのは日本からの参加者でしたが、今回はヨーロッパでの開催でもありヨーロッパからの参加者が半数(208名)を占めました。

写真1 会場前にて

表1 国別の参加者リスト

日本	65	ロシア	4
チェコ	50	ハンガリー	4
アメリカ	33	インド	4
スペイン	28	スウェーデン	3
スロバキア	21	ポルトガル	3
ドイツ	18	イスラエル	3
イタリア	17	オーストラリア	3
台湾	16	ブルガリア	2
韓国	14	フィンランド	2
フランス	12	シンガポール	2
ブラジル	12	トルコ	2
ベルギー	11	オランダ	1
ポーランド	11	アゼルバイジャン	1
イギリス	10	デンマーク	1
カナダ	10	スロベニア	1
ユーゴスラビア	8	クロアチア	1
オーストリア	5	マケドニア	1
ルーマニア	4	ベラルーシ	1
イラン	4	香港	1
合計			389

Hiroyuki INOUE and Katsuari KAMEI

* 立命館大学理工学部情報学科

特に、地元のチェコをはじめ東欧各国からの参加(103名)が多くありました。

会議のプログラムは、4日間で Invited Lecture が8件、パネルディスカッション、一般セッションおよび Invited セッションが69セッションが組まれていました。Invited Lecture の内容は以下の通りです。

- L.A. Zadeh: The theory of fuzzy information granulation and its centrality in fuzzy logic
- D.M. Gabbay: Fibring and labelling: two methods for making modal logic fuzzy
- K. Hirota: A proposal of knowledge base for multimedia intelligent communication system
- G.J. Klir: Uncertainty-based information: a critical examination
- R. Kruse, C. Borgelt: Learning possibilistic networks: data mining applications
- D. Mundici: Logic and computation of non-boolean partitions
- M. Vlach: Scheduling and sequencing in fuzzy environment
- P. Zlatos: The alternative set theory and fuzzy sets

特に、Opening Session(写真2)の後、Zadeh 教授はファジィと granulation(粒度)について熱心に講演されていました(写真3)。

会場が大学の講義室を使っていたこともあり、各セッションの講演では OHP だけでなく黒板まで使って説明されている方もたくさんおられ、活発な議論がなされていました。しかし、私が発表した Genetic Algorithms I はホームページや郵送されてきたプログラムと、受付時にいただいた Final

Program とでは発表時間も場所もアナウンスなしに変わっており、気がつかなければ忘れるところでした。そのためか、司会者が知らなかったようで、会場に姿を見せられず、結局、1st speaker の K. Zimmermann 氏がセッションの進行をされました。そのため、私の発表に対しての質問は何もなく、何か拍子抜けという感じがしました。関係者に対し、変更のアナウンスをもう少し明確に伝えて欲しいと思いました。

3. Welcome Party

Welcome Party は、ヴァーツラフ広場の一角にあるレストランの最上階で行われ、立食形式でした。また、テラスに出ることができ、プラハの街並みを見ながらのパーティでした(写真4)。普通の

写真3 Zadeh 教授の講演

写真2 Opening Session の様子

写真4 Welcome Party にて(Crockett 教授夫妻)

バンケットなら多くの方からのご挨拶があるので、さすがは音楽の町プラハ、Welcome Partyでは代わりにコンサートがありました。IIZUKA'96でも素晴らしいピアノを披露してくれたM. Grabisch氏のショパンをはじめ7組の演奏がありました。いずれもハイレベルな演奏で、素晴らしいものでした。私もオーケストラなどでトロンボーンをやっているのです、楽器を持ってきて参加したくなりました。

また、Welcome Party以外にいろいろな Social Programが用意されていましたが、音楽のコンサートも用意されていました。私達も、オルガンコンサートに行き、バッハからヤナーチェクの曲まで10曲程度を実際の教会のパイプオルガンを使って演奏されました。

4. 音楽の町プラハ

プラハは百塔の街として有名ですが、音楽が大変盛んであるという側面も持っています。偉大な作曲家もたくさん出ています。ドボルザークは、「新世界」などが日本でもお馴染みです。国民的作曲家スメタナの我が祖国第2曲目「モルダウ」は、プラハに流れるヴァルタヴァ川のことであり、第1曲目「高い城」はプラハ近郊にあるヴィシェフラートというお城です。近世の作曲家としてヤナーチェクなども挙げられます。マーラーも若い頃この地で指揮者として活動しています。また、モーツァルトが「ドン・ジョバンニ」を作曲したのはプラハです。昨年亡くなられたのですが、チェコ出身の世界的指揮者であったクーベリックは、亡命していたのですが、1990年のプラハの春音楽祭で「我が祖国」の指揮をし、人々に感銘を与えました。このようにウィーンやドイツに負けないくらい、音楽の歴史を持っています。

プラハでは、毎晩のようにコンサートが開かれており、道を歩くとコンサートのビラがたくさん

写真5 カレル橋で演奏する楽団

もらえます。私達も、プラハ・モーツァルト・オーケストラの演奏をドボルザークホールで聴くことができました。また、毎年5月から1カ月くらいプラハの春音楽祭が開かれており、今年は井上道義率いる京都市交響楽団が参加していました。会議がもう1カ月早かったら聞けたのにと残念です。その他に、街角で演奏されてる方もありました(写真5)。

このように、音楽の好きな私にとって十分に楽しむことができました。今度はプライベートで来て、音楽三昧の生活をしてみたいものです。

5. おわりに

本会議に出席して、ファジィのトップレベル研究に触れることができ大変有意義でした。次回の1999年(今世紀最後)の開催場所は、台湾だそうです。食べることに興味のある人は、絶好の場所だと思います。

[問い合わせ先]

〒525 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部情報学科亀井研究室
井上博行
TEL: 0775-61-2807
FAX: 0775-61-2669
Email: hiro@spice.cs.ritsumeai.ac.jp